



Prism

日記から聞こえる「心の声」を大切に

新年度が始まり、8年生としての生活が軌道に乗り始めました。昨年度とは異なる環境、少しずつ重くなる責任。そんな中、生徒たちは与えられた課題に前向きに取り組もうと、日々奮闘しています。

そんな彼らの「いま」を知る大切な窓口が、毎日提出される日記です。

日記の分量は人それぞれです。1ページびっしり書く子もいれば、たった1行だけの子もいます。しかし、大切なのは行数ではなく、そこに込められた「心の声」を読み取ることだと考えています。そんな1行から、授業での疲れや、夜遅くまで勉強に励んだ背景を想像します。私はそこに、「わかる!先生も体がだるい時があるよ。でも学校でみんなの顔を見ると不思議と元気が出るんだ。なぜだろうね?」と、一人の人間としての素直な気持ちを返します。このやり取りは、単なる事務的な確認ではありません。日記という静かな対話を通じて、生徒の心のコンディションを把握し、寄り添うための貴重な時間なのです。

昨今、生成AIの進化には目を見張るものがあります。適切な指示を出せば、日記でさえも代筆してくれるかもしれません。しかし、AIが得意とするのは膨大なデータからのパターン化であり、そこには「自らの体験に基づいた感情」や「湧き上がる好奇心」はありません。SOLANが重視するのは、まさにその部分です。「受け身ではなく、自ら考える力」、「事象に対して「自分はどうかあるべきか」という意志を持つこと」

AIが書いた整った文章よりも、ただたどしくても自分の手で書き込まれた「心の声」にこそ、新しい価値を生み出す源泉があるのだと信じています。

来年、一人ひとりが自分の決めた道へ胸を張って進んでいけるよう、私たちは今、彼らの学びの実態を丁寧にみとり、支援のあり方を探っています。

日記に綴られる言葉の端々からSOSや喜びをキャッチし、教室が彼らにとって「自分らしくいられる心地よい居場所」であるよう、これからも一言ひと言を大切に読み解いていきたいと思ひます。



オランダからお友達がやってきた!

木曜日は、オランダの現地校に通っているKさんが、8年の教室で1日過ごしました。ある授業の冒頭に、オランダの学校の話をしてもらいました。「リスニングアップも兼ねて英語で話します!」と言って、Kさんは英語で話し始めました。

私は一生懸命聞いていましたが、話すスピードが速すぎて、ついていけませんでした。

「ねえ、みんな!今何を話したかわかる?」と聞くと、「大体のことはわかったよ。子どものことや学校の建物のことなど、色々と話していた」と答えました。

「えー、すごい!」と言!

子どもの英語力は、なかなかでした。英検の指導をされている先生に話を聞くと、「とても耳がいい!よく聞き取れる!」とおっしゃっていました。

日々、外国人教師の英語を聞いている子どもたち。さすがです!

英語力が一番低い担任としては、少しでも努力して、子どもたちに追いつかなければと思った1日でした。



【教室・学校風景】



【Lunch time】



【委員会】



【授業に集中!】